

## 患者・国民のための医療改革

### 「勤労者生活の質の定点観測に関する調査研究委員会委員」（\*主査）

- \*山崎 泰彦（神奈川県立保健福祉大学教授） 堀 真奈美（東海大学教養学部専任講師）  
北浦 正行（社会経済生産性本部社会労働部長）  
小野田朝栄（健康保険組合経営研究会常務理事・事務局長）  
竹本 善次（福祉・社会保障総合研究所代表） 木村 崇（自治労健康福祉局次長）  
渡辺 克也（U I ゼンセン同盟政策局） 福田 拓治（自動車総連総務部長）  
花井 圭子（連合生活福祉局次長） 河村 雄三（連合生活福祉局部長）

### 特別委員

大道 久（日本大学医学部教授・日本医療機能評価機構理事）

当調査研究は、日本の医療システムの現状と課題、改革の方向性等について、医療の質の向上と安全確保を中心に利用者の立場から調査研究・議論を重ね、04年11月に報告書をまとめた。

即ち患者・国民のための医療改革を進めるための12の提言を行い、また総論では、「医療資源の効率的な利用を進める上で、医療機関の機能分化を図りつつ、一定の秩序ある受療を促進する必要がある」とした上で、患者・国民本位の良質で効率的な医療を普及・発展させるための取り組みとして、次の3つの視点をあげた。(1) 患者の医療選択のための、医療機関や医療についての適切な情報提供の促進、(2) インフォームド・コンセントを徹底するとともに、診療情報の提供や根拠に基づく医療（EBM）を推進し、かつ安全で安心できる医療管理体制を構築する、(3) 国民自らが健康に対する自覚を高め、日常的な健康づくり・疾病予防に努めるとともに、地域における医療の質の向上と効率化のための取り組みに積極的に参加する。

### 目次

提言 一患者・国民のための医療改革を進めるために一

総論 患者・国民本位の医療制度改革に向けて

- 第1章 患者・国民が求めている医療とはなにか  
第2章 医療に関する情報提供と現状のあり方  
第3章 患者の「知る権利」「自己決定権」と立法  
第4章 医療事故の防止と被害者の救済  
第5章 医療従事者の確保と医療供給体制の課題  
第6章 良質で効率的な医療の確率  
第7章 医療費の適正化  
第8章 健康と生涯  
第9章 医療保険制度改革の視点：地域と向き合う  
第10章 医療改革はどう進めるべきか一国民のための医療へ対立を超えて